

底的に分析し、独自の基準で事故の回避支援と被害軽減の実現をめざすものと説明。そして、技術の進化も重要だが、機能に対する誤解や過信を取り除いていくことも大切であると強調した。「例えば、私たちは自動ブレーキではなく、『衝突軽減ブレーキ』と表現しています。衝突時の被害を軽くするためのもので、衝突前にクルマを完全に止められると断言できるものではないからです」と吉田さんはいう。そして、常にミリ波レーダーと単眼カメラで前方の状況を確認し、ドライバーをサポートする「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を解説。「レーダーもカメラも本来の性能以上のことはできません。天候状況などでカメラが対象物を見つけれないこともありますし、レーダーが反応しない道路状況や対象物も存在します。そこで、私たちはお客様に『条件がそろえば、自動で作動しますが、自動で作動することと衝突しないことは同じではありません』と説明しています。機能には限界があるということを理解していただきたいと思います」。この後、「Honda SENSING」に関する質疑応答があり、その1つ1つに吉田さんが回答を行った。最後に受講者はグループに分かれて、「先進技術の有効性と安全教育について」というテーマでディスカッションし、研修は終了した。

研修には合計100人以上が参加。警視庁の保谷さんは「受講した全員が『Honda SENSING』を体験できたので、たいへん有意義な研修になりました。安全運転支援システムの機能の限界についても、わかりやすく解説していただき、ありがたく思っています」と感想を語った。Hondaはお客様に正しく理解していただくために、また体験試乗会を安全に運営するために、四輪販売会社(Honda Cars)のスタッフに対し、交通教育センターにて「Honda SENSING」の研修を実施している。今後、全国のHonda Carsを通じて、先進の安全運転支援システムに対する正しい理解の普及を強化していく考えだ。



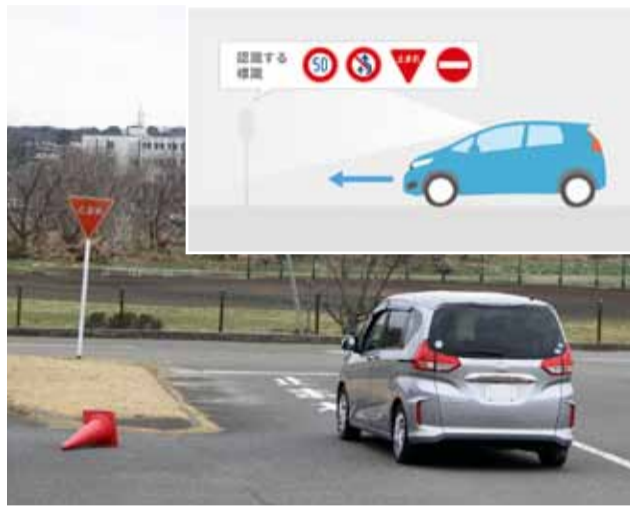
「Honda SENSING」の体験はHondaのスタッフやインストラクターの運転のもとで行われた



専用のダミーターゲットを使った「衝突軽減ブレーキ (CMBS)」と「誤発進抑制機能」の体験



前車が発進したことをディスプレイ表示と音で知らせる「先行車発進お知らせ機能」の体験



道路標識をディスプレイに表示する「標識認識機能」の体験



坂道など道路状況によりレーダーやカメラが前車を正しく検知できないケースも体験してもらう



体験後の座学では、本田技研工業(株)吉田秀彦さんが「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を解説

Safety Info.

インフォメーション①

交通教育センターレインボー浜名湖に 静岡県警察本部が感謝状を贈呈

交通教育センターレインボー浜名湖は2002年の開所以来、静岡県警察白バイ隊の訓練にコースを利用してもらい、同センターのインストラクターが新規隊員の養成訓練、現役隊員へのフォロー研修に協力している。こうした白バイ隊員の公務中の交通事故防止をはじめ幅広い交通安全活動に対して静岡県警察本部は高く評価し、2月

13日、同センターに感謝状を贈呈した。小林朋幸・同センター所長は「私たちが実践している『人から人への手渡し交通安全活動』を評価していただき、職員一同うれしく思っています。今後も警察行政に積極的に協力し、地域の交通教育センターとしての役割を果たしてまいります」と語った。



写真左から、武村和典・静岡県警察本部交通部長、佐竹正規・(株)レインボーモータースクール代表取締役社長、小林朋幸・交通教育センターレインボー浜名湖所長